

1. 概要

モルディブは約1,190の小島(198の有人島)からなる小規模島嶼国。同国は伝統的に我が国と友好関係にある。我が国は、地形的特殊性から生じるモルディブの社会経済開発の困難性に配慮し、国民生活の安定・向上に資する分野を対象に無償資金協力及び技術協力を実施してきた。2006年6月には、同国に対する初めての円借款の供与を決定した(下記4.)。

(参考: 主要経済指標等(2008年)、出展: 世銀WDI)

人口: 31万人、一人あたりGNI: 約3,630ドル、経済成長率: 5.8%

国家予算(歳入) 6939.5百万ルフィア(約498億8千万円)(2008年)

(1ルフィア=約7.18円、2010年4月)

2. 援助の目的と意義

南西アジア地域と中東を結ぶ地政学的にも重要な位置にある。また我が国との良好な関係を維持するためにも、ODAの効果的・効率的な活用を通じて、同国の社会経済的発展を支援することが求められている。

3. 重点分野

同国の国家開発計画を踏まえつつ、保健、教育等の社会開発分野を中心に支援。また、我が国は、同国の地勢的な特殊性に配慮し、1981年より継続的に食糧援助を実施。右食糧援助は人道支援の側面を持つほか、外貨負担を軽減させて見返り資金を社会開発に再活用するという本スキーム本来の目的が的確に確保された効果的・効率的支援となっている。

4. 円借款の概要

2006年6月、同国に対する初めての円借款の供与を決定した(「モルディブ津波復興計画」、供与限度額: 27億3,300万円)。同計画では、2004年12月に発生したスマトラ沖大地震による津波災害で被害を受けた多数の小規模インフラ(港湾・下水道)の復興支援を通じて、効率的な物流と安定的な下水道サービスの復旧を図り、もって被災民の生活改善及び同国の経済復興に寄与することを目的とする。

5. 無償資金協力の概要

無償資金協力は、これまで、食糧援助(重点分野)のほか、小学校改築支援及びマレ島護岸工事(下記参考1)等を実施。2009年度は食糧援助(3.4億円)、環境プログラム無償資金協力「マレ島におけるクリーンエネルギー促進計画」を実施。2009年度までの累計は271.52億円(概算値、交換公文ベース)。

我が国の対モルディブ援助実績(過去5年)

単位: 億円

年度	円借款	無償資金協力	技術協力
2005	—	1.49	4.40
2006	27.33	1.40	2.16
2007	—	9.13	1.73
2008	—	3.80	1.46
2009	—	13.40	(集計中)
累計	27.33	271.52	58.03

注: 円借款、無償資金協力は交換公文ベース。技術協力はJICA経費実績ベース。

2009年度の無償資金協力の金額は概算値。技術協力の累計は2008年までの累計。

(参考1) 我が国は1987年から2002年までの15年間をかけて、首都マレ島の高潮対策事業(護岸工事)を実施。これにより、マレ島は全周約6kmにわたり護岸で守られた。この護岸が津波災害でマレ島での死者の発生と被害を食い止めた。2006年6月、この護岸工事に対し、我が国は「グリーン・リーフ」モルディブ環境賞を受賞した。



6. 技術協力の概要

これまで技術協力は、小規模ながら、青年招聘を含む研修員受入、青年海外協力隊派遣を中心に実施。

2008年度のJICA経費実績は、1.46億円。2008年度までの技術協力総額累計は、58.03億円。2009年度の実績は集計中。

これまでの実績: 研修生受入 735人、専門家派遣 50人、青年海外協力隊派遣249人(2008年度実績)。

過去5年間の主要経済協力プロジェクト (津波復旧・復興支援を含む)

